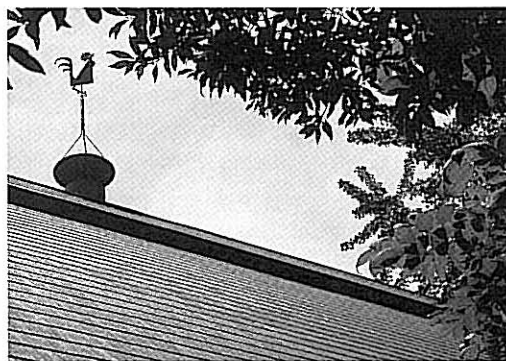




敷地180坪に建つ建坪18坪の自邸



庭と言えない野原。草がないと虫は住めない



鶏が串刺しにならないようデザイン



体の前は暖かいけど背中が寒い。人は暖かさに慣れてしまうと暖かさは感じなくなる

撮影：細川和昭



終の棲家、考

暮らし方研究会顧問
新井律子建築設計事務所主宰

新井 律子 Arai Noriko

暮らし方研究会は「暮らし」と「住まい」に関わる相談窓口として、平成4年11月に設立されました。以来、生活文化や建築をテーマにセミナーや見学会を開催して、生活者への啓蒙普及活動を推進する一方、具体的な支援活動としての相談業務や提案業務も併せて行っております。

さて、十数年の活動の集大成として、平成16年に今、本質のライフスタイルを求めて「やさしさを生きる…」と題した、対話集と写真集からなる出版物を発刊しましたが、かのW.M.ヴォーリス(1880～1964)に連なる建築家、吉村康雄氏の自邸の写真と遺稿を建築技術者諸兄諸姉にご紹介します。

「住居についての私の考え方」

住居は憩の場所、人間性を養う処

住居は憩の場所、そこは家族回帰の中心であり、子供の情操を養う処であり、機械化され、合理化された職場で働いてきた人に憩をあたえ、人間性をとり戻す場所です。そのためにはまず自然を出来るだけとり入れて、これを生かすべきですし、また、ただ合理化ばかりもいけません。場合によっては、不便の楽しさといったようなものもほしいものです。

敷地は出来るだけ広く、家は小さく

出来るだけ敷地は広く、家は小さく建てましょう。家は大きく建てて自慢するものではありません。付近のたたずまいに調和させてこそ美しい建物が出来るのです。人は建物の中だけで暮すわけではありません。自然と調和した環境の中で暮すのです。

青い地球は誰のもの

地球は人類だけのものではありません。日光、空気、水、土とともに草も木も虫も魚もけものも、ありとあらゆる生物すべてが自然の摂理に従って生きているのです。公害をつくらず、リサイクルして、無駄をしないよう注意して、家を建てましょう。

文・吉村康雄

吉村康雄氏 プロフィール

- 1914 東京都生まれ
- 1978 竹中工務店退職
日本ホームズ勤務
吉村住宅設計室開設
- 1995 阪神淡路大震災で父設計の自宅
損壊のため、自身の設計により
再建
- 2005 逝去91歳